

〔名 称〕

まつしろじょうあとつけたりしんごてんあと
史跡松代城跡附新御殿跡（追加指定）

〔追加指定所在地〕

長野市松代町松代字殿町城跡 10 番 5 外

〔追加指定面積〕

17,365.35 m²（合計面積 82,490.86 m²）

〔概 要〕

まつしろじょうあとつけたりしんごてんあと
松代城跡附新御殿跡は、甲斐武田氏の北信濃攻略の前進基地として築城された海津城がはじまりであり、以来、常に北信濃の中心として歴史の舞台に登場し幕末まで続いた城として貴重であるため、昭和 56 年 4 月 11 日に史跡指定されている。

今回の追加指定対象地は、二の丸土塁南東部や二の丸石場門虎口、虎口に伴う三日月堀や丸馬出しなど、甲州流の築城形式を伝える松代城跡の特徴を補強する上で、学術上重要な地域である。平成 25 年に長野市教育委員会が実施した試掘・確認調査では遺構が良好に保存されていることが確認されている。このうち条件の整った箇所について追加指定するものである。

〔問い合わせ先〕

長野市教育委員会文化財課

026-224-7013



〔名 称〕

こまがた
史跡駒形遺跡（追加指定）

〔追加指定所在地〕

茅野市米沢字上ノ平 5073 番

〔追加指定面積〕

304.00 m²（合計面積 31,730.12 m²）

〔概 要〕

こまがた 駒形遺跡は、こくようせき 黒曜石原産地で有名な霧ヶ峰の南麓、ひのきざわがわ 桧沢川が形成した扇状地に立地する縄文時代早期前半から後期前半にわたって長期間断続して営まれた集落遺跡である。黒曜石の集積、製作、搬出に関与した集落跡と推定され、当時の石器製作技術や交易の実態を知る上で重要であることから、平成 10 年 1 月 16 日に史跡指定されている。

平成 23・24 年に茅野市教育委員会が実施した試掘・確認調査によって、縄文時代早期後半及び前期前半、中期、後期前半のたてあな 竪穴建物をはじめとする遺構や黒曜石製の遺物が、また平成 26 年の試掘・確認調査では中期後半の環状集落が確認され、史跡の価値が補強された。

これらの資料を元に、平成 26 年 10 月 6 日の追加指定に続き、条件の整った箇所について追加指定するものである。

〔問い合わせ先〕

茅野市教育委員会文化財課文化財係

0266-76-2386

